



故本會監事前評議員 濱田 彪君

故本會監事前評議員

濱田 彪君小傳

君は長崎縣東彼杵郡舊大村藩士一瀬信造氏の二男にして、明治三年十一月二十三日出生 故あって濱田家を相續す、明治二十四年藏前高等工業學校機械科を卒業し、同年十月三菱合資會社に入社長崎造船所に勤務し果進して、同所副長を経て、大正六年十一月同造船所長に昇任同時に三菱造船會社取締役に選任せられ、大正十四年同社取締役會長に就任す。其間一時三菱製鐵株式會社及航空機株式會社の取締役に兼ね、昭和七年八月造船會社取締役會長辭任に至る迄多年三菱事業の樞機に參畫し任終つて、後尙ほ三菱重工業顧問 三菱社顧問に歴任し、又昭和九年一月日本製鐵株式會社の創立と共に、三菱を代表して、その監査役に就任し今日に至れり。三菱造船會社勤務中海外に出張する事前後二回 長崎造船所に於て氏の計畫により、大艦巨船の船舶汽機汽罐の製作せられたるもの枚擧に遑あらず、尙ほ夙に工場電氣照明及電化に貢獻する處あり 政府亦其勳功を認め三十七八年戰役後勳六等瑞寶章を授けられ、昭和三年御大典に際し、從六位に叙せらる亦宜なりと謂ふ可し

尙ほ氏は公共事業に對しては、大村育英會其他に私財を投じて、英才の養成に勤め又政府の施設に係る臨時海難防止調査委員、海事審議會委員、船舶改善協會管理委員の外社團法人造船協會評議員、同理事、日本機械學會評議員、同監事、藏前工業會理事長、同相談役、藏前工業會館取締役に、同相談役等を歴任し本會に對しては、昭和二年以來の評議員として將亦監事として勤めて諸會合に出席し、その舉止快活にして音吐朗々たる常に會合に活氣を添へたるは今尙ほ眼前に髣髴たるものあり、氏は身體強健尙ほ永く將來の活動を期待せしに圖らざりき、昨年十一月七日午後六時五十分腦溢血の爲め、突然急逝せらる享年六十九歳爲邦家洵に痛惜に堪えざるなり